

皆さま、こんにちは。今回は私たちリハビリテーション科の紹介をいたします。このごろでは「リハビリテーション」という言葉もずいぶん一般に知られるようになってきました。芸能人やスポーツ選手が「リハビリをしています」とテレビや新聞で報道されたり、テレビドラマの中にもリハビリテーションの場面が登場したりするようになってきました。リハビリテーションの「リ」には「ふたたび」という意味があります。ですから、**リハビリテーションの目的は、病気やケガでそこなわれた機能があっても、その機能回復を促しながら、残された機能も活用して、なるべくその人らしい生活に復帰するということです。**

当院のリハビリテーション科には理学療法(理学療法士12名)、作業療法(作業療法士8名)、言語療法(言語療法士2名)の3つがあり、それぞれに役割が異なります。

【理学療法】寝ている状態から、起きあがる、すわる、立つ、歩く、といった基本的な移動動作能力の獲得を目指します。病気の発症もしくは、さまざまな手術の後なるべく早く、ベッドを離れて移動動作能力や体力を回復することを第一の目標としています。また、当院理学療法科は、成人患者への理学療法の他、新生児科及び小児科患者への関わりも特色の1つとしています。心身両面から発育の促進と、ご家族への援助を行っています。

【作業療法】人は歩いて移動できるだけでは、日常生活を送ることはできません。洋服を着たり歯を磨いたり、食事をしたり、家事をしたり、仕事をしたり様々な「日常生活動作」を行わなくてはなりません。作業療法では、それらの身近動作や家事動作について、その動作ができない原因をさぐり、その人にあった適切なやり方や介護の方法を訓練・指導します。また入院生活やさまざまな障害により、失われやすい精神活動や生活に対する意欲の維持・改善をはかるとともに、不安を和らげたり、自信づけを行ったりします。

【言語療法】ことばに関する問題がある方に対して、日常生活におけるコミュニケーション方法の獲得に向けた訓練、指導を行っています。最近では「食べること/のみこみ」に対して問題のある方への関わりも増えています。「ことば」「声や発音」「のみこみ」に関する問題は、幅がひろく、乳幼児から高齢の方までその方の年齢や環境に応じた支援を行っています。



このように、いつもリハビリテーション室では様々な年代の様々な障害の方々毎日頑張っています。リハビリは「つらい」「くるしい」「がまん」というイメージがあるようです。もちろんそれらも時には必要かもしれませんが、リハビリテーション科スタッフは**患者さん**がなるべく楽しく、毎日意欲的にリハビリに取り組めるよう、努めています。

《編集後記》

今回は、リハビリテーション科を紹介しました。若い職員が多く活気のある職場です。当院では、入院患者さんの早期機能回復を目的とし、土曜リハを実施しています。発行：広報委員会

〒432-8580 浜松市中区富塚町328

TEL 053(453)7111 : FAX 053(452)9217

URL <http://www.hmedc.or.jp> : E-Mail koho@hmedc.or.jp

ふれあい



リハビリテーション科のスタッフです。患者さんが楽しく意欲的にリハビリテーションに取り組めるよう頑張っています。

目次

のぞいてください。
(医療連携・患者支援センター室ができました)
当院には、6人の
「がん治療認定医」がいます。
フィルムレスについて
診療科紹介：リハビリテーション科
編集後記：土曜リハ、実施しています！

～ ご自由にお持ち下さい ～

のぞいてください！（医療連携・患者支援センター室ができました。）

なんでも
ご相談
下さい

免震工事の一環で皆様方にご不自由をおかけいたしました。本年7月末に玄関東側入口に**医療連携・患者支援センター室**が出来上がりました。医療連携室と総合相談支援室とから成り、事務員、看護師、ソーシャルワーカーで構成されています。医療連携室は事務員5名で主に病診・病病連携に関する事務（紹介患者予約受付、他医療機関への予約事務手続き、院内外の医師との連絡等）を行っています。

また、このたび整備されました総合相談支援室では看護師が「がん診療拠点病院」としてがんに関わる相談、セカンドオピニオンに関する相談、その他診療に関する相談等に応じます。また、「がん」における書籍も用意いたしました。絵本から専門的なものまで皆様に自由に閲覧いただき、ご希望があれば貸出もいたします。書籍数はまだ十分とはいえませんが、是非一度覗いてください。

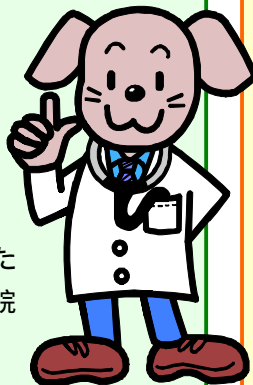
支援室組織の一つである医療相談室は2号館2階に位置し、ソーシャルワーカー3名が、従来どおり患者さんの社会復帰への支援、後方病院への手続き、公的援助および経済的援助等の相談に対応しています。

患者の皆さんにご利用いただける体制づくりをモットーにしたいと思っています。ご意見・ご要望をお寄せください。

（文責：医療連携・患者支援センター長 二橋静子）

当院には6人の「がん治療認定医」がいます。

「がん」は全身いたるところにできる悪性腫瘍の総称です。すべての「がん」をひとつの視点から捉えることはできません。「がん」の種類により治療方法も違ってきます。しかしわが国では臓器別に診療が行なわれて来た結果、これまで診療科の垣根を越えて包括的にがん治療が出来る医師は、ほとんどいませんでした。この弊害を是正するため平成19年に学会の枠を超えた「がん治療認定医制度」が発足し静岡県下でも当院を含め20病院が認定施設として登録されました。同時に暫定教育医も当院で18名認定され「がん治療認定医」育成に励んでいます。



がん治療認定医は「がん」について幅広い知識を持ち、「がん」で悩む患者さん達が全国どこの認定病院を受診しても一定レベル以上の治療を提供することができる医師たちを意味します。

平成20年がん治療認定医試験は2回にわけて行われ、当院からは6名の合格者ができました。当院では今後さらに「がん治療認定医」教育を行なうことで、「がん」診療の発展と進歩を促し、「がん」患者さんを包括的に診療できる環境作りに励んでまいります。
（文責：外科 池松禎人）

フィルムレスについて

フィルムレスとは、デジタルX線装置で撮影した胸部写真やCT・MRIといった医療画像をフィルムに写さないで、パソコン等のモニターに表示して、観察・診断する事です。皆さんもデジタルカメラや携帯電話で撮った写真をプリントせずにパソコン等で見る方も多いと思います。医療画像を電子化、**フィルムレス化する事によって、患者さんには現像の待ち時間が無く、フィルムの持ち帰りも無くなり、医療費の削減にもなります。**また病院では膨大なフィルムを保管する場所が不要となり、煩雑なフィルムの所在管理も解消され、端末機（コンピューター）があれば、いつでもすばやく画像を観ることができ、画像の劣化もありません。さらに紹介先の病院との画像のやりとりもCDRやインターネットを使って行なうことも可能となります。良いことばかりのシステムですが、病院全体のネットワーク構築や、多くの端末機やデータ保存管理に、かなりの設備投資が必要になります。



当院では現在、CTとMRI検査はフィルムレスを実施しております。今後、電子カルテ導入が予定されており、他の放射線画像に関しても電子カルテと連携したフィルムレスを実施して行きたいと考えています。

（文責：診療放射線技術科長 延澤秀二）